

XI 地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業（県事業）

1 目的

三重県教育委員会事務局教育政策課は、令和元年度から3年計画で「地域解決型キャリア教育モデル構築事業」を実施している。この事業は県内9校をパイロット校としており、地元市町の協力を得ながら地域と協働して地域を学び場とした取組を推進し、それぞれの地域に地域課題解決型キャリア教育を根付かせていくことを目的とする。本校はこの事業の取組と併走し、互いの取組を学び合うことを意図している。

2 内容

(1) 「地域みらいPBL会議」

6月9日(日)、参加生徒7名・教員2名、於：三重県立美術館

県事業のキックオフ集会でもあり、東京大学鈴木寛教授の講演やパネルディスカッションが行われた。講演では、今後は「想定外、板挟み、修羅場と向き合い乗り越える力」が重要であり、それはPBLを実践することで対応できると述べられた。パネルディスカッションでは、他校生徒や大学生が身近なことから課題意識を持ち、何とかしようと考え行動していることが話題となった。また、校内の学びを校外へ広げて実践しているという共通点がみられた。校外での学びの広がりによって、軸を持った活動になるのが改めて感じられた。



(2) 「第4回全国高校生SBP交流フェア」

8月23, 24日(金, 土)、参加生徒3名・教員3名、於：皇學館大学 他

今回は見学のみでの参加であったが、生徒交流は連日盛んに行われ、まだ自分たちが活動にまで至っていない実践や経験を見聞きして大いに刺激を受けた。日頃の活動内容や課題意識、振り返りを整理しまとめておくことの必要性が感じられ、生徒が自走できる仕組みが大切だとわかった。

(3) 「令和元年度 第6回総合教育会議」

12月24日(火)、参加生徒3名・教員2名、於：三重県勤労者福祉会館

本校を含む3校が、地域課題解決型キャリア教育の実践について、三重県知事や教育長、委員の方々の前で成果報告する機会を得た。参加生徒3名はそれぞれ、①1学年「産業社会と人間」での2回にわたるフィールドワークを通して学んだ地域の魅力・課題、②コンピュータ系列「マーケティング」での飯南高校ブランディング(イメージキャラクター制作)、③応援団サークルの企業とのコラボ商品(木の手帳)・飯南飯高つながるちからタオル、の3点について報告した。知事の前でも物怖じせず、堂々と取り組んできた内容を伝えることができた。



報告後の意見交換では、参加委員の方々から「利益を追求するだけでなく地域へどのように貢献できるか」、「達成感をもってチームを築き上げていくことが大切」、「人との出会いや違う価値観の認め合いが自己の成長へと繋がる」等の意見を受けた。参加生徒からは、大人を巻き込んだ活動の重要性や以前より感謝の気持ちを持てるようになったと話があった。また教員からは、産みの苦しみはあるが地域との連携は生徒の学びになること、少しずつだが成果は表れてきていること等の意見を出した。

(4) 「高校生地域創造サミット」

12月26、27日(木、金)、参加生徒2名・教員4名、於：東長島公民館 他

県内外5校の実践報告を聴き、その後、「地域の資源や特色を活かした活性化を目指すためには」という命題のもと、各グループで紀北町へのフィールドワークを行った。夜の還流報告では、地域の本気の大人たちとの交流を共有した。本校生徒は司会の一人として場を切り盛りし、「地域の名物・名産で新しいものを創り出すことは必要だが、経済が回らなければ、お金を生み出さなければいけない」と意見した。日頃の活動を通して出た生徒のリアルな意見は、ボランティアで終わらず、「地域で生きて行くには」という部分にまで切り込んだものであった。



2日目は各グループで発表に向けた議論が行われ、成果発表ではグループ内で議論された内容を写真のように巧みにプレゼンテーションすることができていた。インプット・アウトプット双方がめまぐるしく行われたこのサミットでの生徒の成長は著しいと感じた。それと同時に、本校若手教員が本校・他校の生徒の自分ごととした活動を目の当たりにし、学校の授業でももっと高められるのではないかという感想を持ったことも大きな収穫だった。

3 成果と課題

参加生徒は以上の活動を通して、答えが一つでない問いに対して他者と協働し、納得解を創り出す過程を同じ高校生の実践者から生で聴くことができた。これら様々な実践例を聴いて、そこまではできないという意見も当然生徒からは出たが、これならやれそうだという感触をいくつか持てたことは大きかったと感じる。実際、参加した生徒たちが地域の大人と協働して活動を行っていったことはその表れだと考えられる。今回、自分たちも協働して納得解を創り出す経験を積むことができたことも、その自らの活動へと突き動かした要因だろう。

これらの経験から、失敗を怖れず、考えたことをまずは実践する行動力が身に付いたと感じる。これらイベントに参加した生徒は、延べ15名にとどまった。他校の生徒との協働した学びによる深まりや、同じ高校生による活動を聴いて大きな刺激を受けたことを考えると、今後はより多くの参加者を送り出したい。今年度は各教室に掲示して募集をしたものであったが、授業やホームルーム、集会などでも呼びかけて、校外の意欲的な生徒との交流を仕掛けていきたい。

XII 各種データ

1 地域協働カリキュラム推進委員会報告

(1) 委員会設置の趣旨

本委員会は校長、教頭、本事業研究担当、教務主任、進路指導主事、各学年キャリア教育担当、各系列代表、カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員で構成し、本事業の運営方法や指導案等を検討する。そして、対話力・追究力・創造力・発信力を見に付けていける地域課題解決型キャリア教育のカリキュラム開発、評価、改善提案を行っていく。

＜本年度の委員会構成：12名＞

土方 清裕(校長)、入江 昇(教頭)、多賀 秀徳(本事業研究担当兼教務主任)、杉野 直樹(進路指導主事兼介護福祉系列)、岡田 峰尚(1学年キャリア教育担当)、堀口 有紀子(2学年キャリア教育担当兼コンピュータ系列代表)、正高 徳人(3学年キャリア教育担当)、坂元 利孝(郷土・環境系列代表)、門脇 千潤(総合進学系列代表)、横山 陽子(地域協働学習実施支援員)、江森 真矢子、浅野 吉英(以上、カリキュラム開発等専門家)

(2) 活動報告（報告事項は除く）

①第1回委員会(6月3日)

初回のため、本委員会の役割やメンバーについて確認した。そして、この段階でメンバーが未定である地域協働学習実施支援員については、松阪市が初採用する地域おこし協力隊が担うことも確認された。その後、3つの柱(①総合学科の柱の3科目の再構築、②4系列の特色を活かした地域貢献のための学習活動の充実、③探究的な学びを進める授業改善)と4つの力(対話力・追究力・創造力・発信力)について、何をどのようにしていくのか協議を行った。

次に、「産業社会と人間」と「キャリアデザイン」の年間計画について、昨年度からの変更点を確認された。「産業社会と人間」については、今年度運用しながら大きく変更していくため、委員会で内容や指導案等を検討する必要がある。しかし、委員会メンバーの日程調整が難しく毎月開催は厳しいため、授業時間内に「作業部会」をつくり、案を出し合って検討することが決められた。作業部会のメンバーは、昨年度中に今年度の年間計画原案を作成したメンバーを中心に構成された。「キャリアデザイン」については2年次1単位科目のため、例年時間配分が厳しいことから、今後何が生徒の学びにとって大事なのか、優先すべきなのかを精査する必要があると意見が出た。また、継続的に組織としてカリキュラムデザインするために、年間計画案については今後この委員会で揉んでいく方向にしたいと提案があった。

②第2回委員会(7月12日)

まず校長より、今後の教育には行政と学校の両輪が必要で、その円滑な連携の可能性が飯南飯高地域にはあること、その連携で本校が全国的にも入学したい学校となるように全国レベルの仕事をしていき、生徒に確かな力を付けていきたいという2点の話があった。

次に、「産業社会と人間」と「キャリアデザイン」の来年度シラバスの変更点について協議を行った。進路ガイダンスや大学等授業体験の時期の問題や、客観的評価やエゴグラムについて意見が交わされた。そして、授業内で行う活動が4つの力のどれを付けることになるのか、評価とともに今後継続検討していくことも議論された。また、1学期の反省から、「メモを取る大切さ」について訓練を通して培っていかなければならないという意見も出た。

次いで、1学期フィールドワークのアンケートや反省を共有しながら、2学期フィールドワークの内容案を作業部会から提案した。目標やつけたい力を確認し、内容の大枠(①前回フィールドワークに引き続いて興味のあるテーマ、②地域の歴史・文化に触れるテーマ、③企業との意見交換や魅力体験等)を検討した。そして次回は地域住民との対話を意図的に組み込んでいくことも話し合われた。またそれに関連して、報告書のまとめ方や発表の仕方についての意見交換もあった。

③第3回委員会(10月16日)

まず校長から、日本の高校生は自己有用感が低いと言われているが、学校外での活動を行っていきながら周囲に認められ、次第に自己有用感が高まっていくはずなので、第2回フィールドワークはその要素を秘めているものだと話があった。そして10月から松阪市で地域おこし協力隊が採用されたため、今回から地域協働学習実施支援員が会議に参加することとなった。

今回は、今年度の大きな目玉である第2回フィールドワークの具体的な内容案が協議された。前回の反省から、1フィールドにつき1名の教員引率や地域の大人との関わりを持たせることや、生徒はフィールドごとの問いに対して自分なりの解答をもって事前学習を進めることが提案された。

最後に校長から、まずは3つの柱のうち「総合学科の柱の3科目の再構築」を今年度は重点的に行っているが、系列授業そして全ての授業で取組を進めてもらいたいとの意見があった。やれるところから輪を広げていき、授業の相互参観にも取り組んでほしいとの提案もあった。

④第4回委員会(1月21日)

文部科学省への提出資料(来年度研究開発実施計画書および今年度研究開発実施状況報告書)について協議を行った。あわせて、今後の本校コミュニティスクール化をにらんだコンソーシアム運営委員の増員について校長から説明があった。

⑤第5回委員会(2月26日)

まず校長から、今後社会では自分たちで納得解を作り出す力が求められていく中で、今年度の「産業社会と人間」の取組は価値のあるものになったとの意見があった。その後、「産業社会と人間」の3学期発表の振り返りを行い、「12月から比べても急成長を感じた」や「何とか他地域と比較して、自分なりの解決策を出す生徒もいた」等の肯定的な意見が出た。ただ一方で、「2学期の発表内容から変更した生徒は活動しづらく感じていた」や「もっとしっかりと調べた上で、自らの課題を見つけてほしかった」等の課題も出た。来年度は、フィールドワークの内容を継続させて活動を進めていけるような工夫が必要である。また、問いをどのように持たせるかが大きな課題であるとの意見もあった。

次に来年度の「産業社会と人間」と「キャリアデザイン」の年間計画について協議を行った。「産業社会と人間」については、フィールドワーク事前学習の時間が余裕を持って取れなかった反省を元に、事前学習をしっかり行うことが共有された。「キャリアデザイン」については、「本気の大人講演会」を学期1回入れる方向で時間に余裕を持たせること、8月のセルフインターンシップで地元企業への体験を盛り込ませることを新たに設定した。そして1、2月に実施するプレいいなんゼミについての意見共有が行われた。また「いいなんゼミ」については、専門性を持った地域の方から指導していただける部分があって良いのではないかという意見があり、生徒の困りごとをどのように共有するのかについて話し合われた。

2 作業部会報告

(1) 作業部会設置の趣旨

先述したように、地域協働カリキュラム推進委員会メンバーの日程調整が難しく、委員会の毎月開催は厳しいため、「作業部会」を授業時間内に開催して、特に「産業社会と人間」の計画案について検討することとなった。

(2) 活動報告

①第1回作業部会(6月20日3,4限)

- ・作業部会の運用を確認

指導案あるいは配布プリントの作成、全体への説明方法等の保存等

- ・フィールドワーク関連振り返り会(6月18日開催)の内容の共有・反省
- ・来年度の年度当初に仲間づくりワークショップの開催を検討
- ・第2回フィールドワークについて

2日間のあり方や報告・発表方法について協議

②第2回作業部会(6月27日3,4限)

- ・魅力マップのアンケートを共有
- ・第2回フィールドワークについて

目標と付けたい力を協議、テーマの素案を検討

③第3回作業部会(9月12日3,4限)

- ・第2回フィールドワークについて

2日間の日程を確認、活動先を協議

- ④第4回作業部会（9月26日3,4限）
 - ・第2回フィールドワークについて
具体的な活動予定や教員引率を協議
- ⑤第5回作業部会（10月3日3,4限）
 - ・第2回フィールドワークについて
活動先の受け入れ状況を共有、事前学習内容や振り返り方法を検討
 - ・今年度のいいなんゼミ報告書案を検討
- ⑥第6回作業部会（10月31日3,4限）
 - ・第2回フィールドワークの振り返り
 - ・課題解決学習について
枠組みを協議、まとめるフォーマットを検討
- ⑦第7回作業部会（11月7日3限）
 - ・全国サミットで返却されたアンケート結果について共有
 - ・「産業社会と人間」における年間の活動の流れを確認
 - ・課題解決学習について
全体の流れや指導方法、時間設定を協議
- ⑧第8回作業部会（11月14日3,4限）
 - ・来年度「産業社会と人間」と「キャリアデザイン」の大枠を検討
 - ・総合学科の柱の3科目における繋がりを検討
- ⑨第9回作業部会（12月11日3限）
 - ・第2回フィールドワーク発表会について
意識付けと全体説明の内容を検討
- ⑩第10回作業部会（1月9日4限）
 - ・課題解決学習について
生徒用冊子と担当教員用マニュアルを検討
- ⑪第11回作業部会（1月23日3,4限）
 - ・文部科学省提出「研究開発実施状況報告書」について確認
 - ・来年度「産業社会と人間」と「キャリアデザイン」の年間スケジュールを検討
- ⑫第12回作業部会（2月13日3,4限）
 - ・今年度の成果物の内容を検討
 - ・第5回地域協働カリキュラム推進委員会の議題を検討
- ⑬第13回作業部会（2月27日3,4限）
 - ・島根県立隠岐島前高等学校へのベンチマーキングの還流報告
 - ・学校ホームページの内容について協議
 - ・学校説明のあり方について意見交換

3 「地域との協働」を考えるアンケート

(1) アンケートの趣旨

本事業における管理機関(三重県教育委員会)は、卒業までに生徒に習得させる具体的能力の定着状況を測るものとして、地域協働推進校となる本校等と協議の上で事業を通じて実現する成果目標を設定した。この目標を測るため、学期ごと(1学期7月、2学期12月、3学期3月)にアンケートを行うものである。

(2) 質問文と選択肢

次の8つについて質問し、問1～問6については4段階評価を行い、問7、8については以下のような選択肢で5段階評価を行った。いずれも数値が低いほど低評価、高いほど高評価となっている。

問1：地域の人々と対話する際、相手の思いや考えを理解しながら聴いたり、自分の知りたいことを詳しく尋(たず)ねたりする力は身に付きましたか。

問2：地域の産業などについて詳しく調べたり、課題や改善点を発見したりする力は身に付きましたか。

問3：仲間とともに、地域課題の解決に向けた取組や活動を考えたり、実行したりする力は身に付きましたか。

問4：地域課題を解決するための具体的な考えや提案を、地域の人々をはじめとした様々な人によくわかってもらえるように伝える(プレゼンする)力は身に付きましたか。

問5：将来的に松阪市に住みたいと考えていますか。

問6：将来的に飯南・飯高地域に住みたいと考えていますか。

問7：今現在あなたの飯南・飯高地域への「愛着や関心」について回答してください。

1. 飯南・飯高地域だけに特別の愛着や関心はない
2. 飯南・飯高地域だけに特別の愛着や関心はないが、地域のことを知れば変わらと思う
3. 飯南・飯高地域に愛着や関心があり、今後もその傾向に変わりはないと思う
4. 飯南・飯高地域に愛着や関心があり、さらに地域の産業や文化、歴史などを学んでみたい
5. 飯南・飯高地域に愛着や関心があり、将来は自分が地域をより良い方向に変えていきたい

問8：今現在のあなたの「挑戦力」について回答してください。

1. 何かに挑戦することは、好きではなく、できる限りさけている
2. 何かに挑戦することは、あまり好きではない
3. 何かに挑戦することは、好きでも嫌いでもなく、必要であれば挑戦する
4. 何かに挑戦することは、どちらかといえば好きである
5. 何かに挑戦することは、好きであり、少々の失敗を覚悟のうえで挑戦できる

(3) 目標値

- ①対話力・追究力・創造力・発信力の4つの能力が身に付いたと考える生徒の割合
→問1「対話力」、問2「追究力」、問3「創造力」、問4「発信力」に該当
⇒目標値：肯定的回答の割合がいずれも85%以上
- ②将来的に松阪市に住みたいと考える生徒の割合
→問5に該当
⇒目標値：90%以上
- ③将来的に飯南・飯高地域に住みたいと考える生徒の人数
→問6に該当
⇒目標値：20名以上
- ④「地域アイデンティティ」と「アントレプレナーシップ」に関する自己評価における肯定的評価（第4段階以上）の割合
→問7，8に該当
⇒目標値：3年生の年度末評価において、第4段階以上の割合が80%以上

(4) 結果データ

次のデータは、1学期7月と2学期12月に実施したアンケートデータの結果である。各項目は上述した(3)目標値に対応し、それぞれ全体に対する割合(%)を示している。1学期より5ポイント以上上昇した数値については、太字で表記した。

学 年	1 学年		2 学年		3 学年		
	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	
追究	①対話力	58.2	73.7	51.3	49.4	65.8	60.3
	①追究力	59.5	61.3	47.4	49.4	57.5	57.5
	①創造力	65.8	64.5	50.6	57.1	57.7	43.8
	①発信力	41.3	60.0	35.5	44.2	37.5	47.9
	①全て	29.3	37.3	14.5	18.2	21.1	23.3
	①全て人数	22(人)	28(人)	11(人)	14(人)	15(人)	17(人)
	②	55.1	47.2	65.3	65.8	79.7	77.8
	③	15(人)	10(人)	16(人)	12(人)	17(人)	12(人)
	④地域	13.2	14.1	12.3	16.0	11.6	20.8
	④アントレ	35.4	37.0	43.2	32.9	47.8	47.9

注1) 「①全て」は、4つの力全てが身に付いたと回答した生徒割合

注2) 「①全て人数」は、4つの力全てが身に付いたと回答した生徒人数

注3) 「④地域」は、「地域アイデンティティ」について、第4段階以上の割合が80%以上の割合

注4) 「④アントレ」は、「アントレプレナーシップ」について、第4段階以上の割合が80%以上の割合

注5) アンケート回答数は1学年79名、2学年76名、3学年73名（一部無回答あり）

※詳しい分析については、「IV 令和元年度研究開発実施状況」内「8目標の進捗状況、成果、評価」および「9次年度以降の課題及び改善点」を参照されたい。

- ④第4回作業部会（9月26日 3, 4限）
 - ・第2回フィールドワークについて
具体的な活動予定や教員引率を協議
- ⑤第5回作業部会（10月3日 3, 4限）
 - ・第2回フィールドワークについて
活動先の受け入れ状況を共有、事前学習内容や振り返り方法を検討
 - ・今年度のいいなんゼミ報告書案を検討
- ⑥第6回作業部会（10月31日 3, 4限）
 - ・第2回フィールドワークの振り返り
 - ・課題解決学習について
枠組みを協議、まとめるフォーマットを検討
- ⑦第7回作業部会（11月7日 3限）
 - ・全国サミットで返却されたアンケート結果について共有
 - ・「産業社会と人間」における年間の活動の流れを確認
 - ・課題解決学習について
全体の流れや指導方法、時間設定を協議
- ⑧第8回作業部会（11月14日 3, 4限）
 - ・来年度「産業社会と人間」と「キャリアデザイン」の大枠を検討
 - ・総合学科の柱の3科目における繋がりを検討
- ⑨第9回作業部会（12月11日 3限）
 - ・第2回フィールドワーク発表会について
意識付けと全体説明の内容を検討
- ⑩第10回作業部会（1月9日 4限）
 - ・課題解決学習について
生徒用冊子と担当教員用マニュアルを検討
- ⑪第11回作業部会（1月23日 3, 4限）
 - ・文部科学省提出「研究開発実施状況報告書」について確認
 - ・来年度「産業社会と人間」と「キャリアデザイン」の年間スケジュールを検討
- ⑫第12回作業部会（2月13日 3, 4限）
 - ・今年度の成果物の内容を検討
 - ・第5回地域協働カリキュラム推進委員会の議題を検討
- ⑬第13回作業部会（2月27日 3, 4限）
 - ・島根県立隠岐島前高等学校へのベンチマーキングの還流報告
 - ・学校ホームページの内容について協議
 - ・学校説明のあり方について意見交換

3 「地域との協働」を考えるアンケート

(1) アンケートの趣旨

本事業における管理機関(三重県教育委員会)は、卒業までに生徒に習得させる具体的能力の定着状況を測るものとして、地域協働推進校となる本校等と協議の上で事業を通じて実現する成果目標を設定した。この目標を測るため、学期ごと(1学期7月、2学期12月、3学期3月)にアンケートを行うものである。

(2) 質問文と選択肢

次の8つについて質問し、問1～問6については4段階評価を行い、問7、8については以下のような選択肢で5段階評価を行った。いずれも数値が低いほど低評価、高いほど高評価となっている。

問1：地域の人々と対話する際、相手の思いや考えを理解しながら聴いたり、自分の知りたいことを詳しく尋(たず)ねたりする力は身に付きましたか。

問2：地域の産業などについて詳しく調べたり、課題や改善点を発見したりする力は身に付きましたか。

問3：仲間とともに、地域課題の解決に向けた取組や活動を考えたり、実行したりする力は身に付きましたか。

問4：地域課題を解決するための具体的な考えや提案を、地域の人々をはじめとした様々な人によくわかってもらえるように伝える(プレゼンする)力は身に付きましたか。

問5：将来的に松阪市に住みたいと考えていますか。

問6：将来的に飯南・飯高地域に住みたいと考えていますか。

問7：今現在あなたの飯南・飯高地域への「愛着や関心」について回答してください。

1. 飯南・飯高地域だけに特別の愛着や関心はない
2. 飯南・飯高地域だけに特別の愛着や関心はないが、地域のことを知れば変わらと思う
3. 飯南・飯高地域に愛着や関心があり、今後もその傾向に変わりはないと思う
4. 飯南・飯高地域に愛着や関心があり、さらに地域の産業や文化、歴史などを学んでみたい
5. 飯南・飯高地域に愛着や関心があり、将来は自分が地域をより良い方向に変えていきたい

問8：今現在のあなたの「挑戦力」について回答してください。

1. 何かに挑戦することは、好きではなく、できる限りさけている
2. 何かに挑戦することは、あまり好きではない
3. 何かに挑戦することは、好きでも嫌いでもなく、必要であれば挑戦する
4. 何かに挑戦することは、どちらかといえば好きである
5. 何かに挑戦することは、好きであり、少々の失敗を覚悟のうえで挑戦できる

(3) 目標値

- ①対話力・追究力・創造力・発信力の4つの能力が身に付いたと考える生徒の割合
→問1「対話力」、問2「追究力」、問3「創造力」、問4「発信力」に該当
⇒目標値：肯定的回答の割合がいずれも85%以上
- ②将来的に松阪市に住みたいと考える生徒の割合
→問5に該当
⇒目標値：90%以上
- ③将来的に飯南・飯高地域に住みたいと考える生徒の人数
→問6に該当
⇒目標値：20名以上
- ④「地域アイデンティティ」と「アントレプレナーシップ」に関する自己評価における肯定的評価（第4段階以上）の割合
→問7，8に該当
⇒目標値：3年生の年度末評価において、第4段階以上の割合が80%以上

(4) 結果データ

次のデータは、1学期7月と2学期12月に実施したアンケートデータの結果である。各項目は上述した(3)目標値に対応し、それぞれ全体に対する割合(%)を示している。1学期より5ポイント以上上昇した数値については、太字で表記した。

学 年	1 学年		2 学年		3 学年		
	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	
追究	①対話力	58.2	73.7	51.3	49.4	65.8	60.3
	①追究力	59.5	61.3	47.4	49.4	57.5	57.5
	①創造力	65.8	64.5	50.6	57.1	57.7	43.8
	①発信力	41.3	60.0	35.5	44.2	37.5	47.9
	①全て	29.3	37.3	14.5	18.2	21.1	23.3
	①全て人数	22(人)	28(人)	11(人)	14(人)	15(人)	17(人)
	②	55.1	47.2	65.3	65.8	79.7	77.8
	③	15(人)	10(人)	16(人)	12(人)	17(人)	12(人)
	④地域	13.2	14.1	12.3	16.0	11.6	20.8
	④アントレ	35.4	37.0	43.2	32.9	47.8	47.9

注1) 「①全て」は、4つの力全てが身に付いたと回答した生徒割合

注2) 「①全て人数」は、4つの力全てが身に付いたと回答した生徒人数

注3) 「④地域」は、「地域アイデンティティ」について、第4段階以上の割合が80%以上の割合

注4) 「④アントレ」は、「アントレプレナーシップ」について、第4段階以上の割合が80%以上の割合

注5) アンケート回答数は1学年79名、2学年76名、3学年73名（一部無回答あり）

※詳しい分析については、「IV 令和元年度研究開発実施状況」内「8目標の進捗状況、成果、評価」および「9次年度以降の課題及び改善点」を参照されたい。



文部科学省指定事業

令和元年度

地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)

研究開発実施報告書・第1年次

令和2年3月発行

発行者 三重県立飯南高等学校

〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見5480-1

TEL：0598-32-2203

FAX：0598-32-2204

<http://www.mie-c.ed.jp/hiinan/>



三重県立飯南高等学校